

《カトリック大和高田教会 お知らせ》 2025 年 6 月 22 日

典 礼 暦	日 時 など
キリストの聖体(祭)	6月22日 (日) ミサ 8 : 30
洗礼者聖ヨハネの誕生(祭)	6月24日 (火) ミサはありません
	6月26日 (木) ミサ 10 : 30
イエスのみ心 (祭)	6月27日 (金) ミサはありません
	6月28日 (土) ミサ 10 : 00
主の昇天(祭)	6月29日 (日) 集会祭儀 8 : 30
聖トマス使徒(祝)	7月 3日 (木) ミサ 10 : 30
	7月 5日 (土) ミサ 8 : 00

【カトリック中央協議会／バチカン】

◎6月の教皇の祈りの意向：「世界に思いやりの心を育む」
「わたしたち一人ひとりが、イエスとの人格的な交わりの中でなぐさめをいただき、イエスのみ心によって、世界に対して思いやりの心を育むことができますように」。

◎教皇レオ 14 世は、列聖の件をめぐる枢機卿会議を開催し、
福者カルロ・アクティスと福者ピエル・ジョルジョ・フラッサーティの列聖式を、9 月 7 日に行うことが決定されました。
この枢機卿会議では、世界宣教の日を記念する 10 月 19 日に、
7 人の福者が列聖されることが決定されました。
(詳細は、掲示板をご覧ください)

【京都司教区】

◎大阪高松教会管区部落差別人権活動センター学習会
テーマ：今日の部落問題のありようと社会
講師：黒川みどりさん
日時：7 月 21 日(月、海の日) 14:00～16:30
場所：サクラファミリア(カトリックセンター) 4 階会議室
※詳細は掲示板のチラシをご覧ください

【奈良ブロック】

●2025 年度「聖書を学ぶ会」一テーマ「希望の巡礼者の聖年」			
回	日 時	会 場	講師／「サブテーマ」
4	7 月 12 日(土) 10 : 30～12 : 00	奈良教会	英隆一朗神父(イエズス会)／ 「希望をあかしして生きる」

◎奈良ブロック・合同堅信式のお知らせ
9 月 28 日(日)15:00、奈良教会に変更になりました。
受堅をお望みの方は、司祭、または役員へ申し出で下さい。
対象は中学生以上です。

【大和高田教会】

●典礼部会を行います。
▶本日(6 月 22 日(日))ミサ後、小聖堂で行います。
▶29 日(日)ミサ後、聖具磨きを行います。ご協力下さい。
◎聖堂の座席カバーの洗濯を行います。
本日、ミサ後にお座りになっています座席カバーを皆さままで外してください。外していただいたカバーをご自宅で洗濯後、
6 月 29 日(日)にご持参いただきセッティングをして下さい。
お一人 3 枚を目安にご協力をお願いいたします。

◎「聖書の分かち合い」(Sr. ローマ)：6 月 26 日(木)ミサ後
◆ 教会掃除当番

7 月 6 日 (日) ミサ後：奉仕日 (全員) ワックス掛け
7 月 13 日 (日) ミサ後：D 地区

本日の聖歌

入祭	典	4	あたらしい こひつじ	奉納	典	9 7	このパンを食べ
答唱	プ	聖書と典礼		拝領	典	1 5 7	めぐみのパン
allelu	プ	聖書と典礼		閉祭	平	1 0 1	主の恵みにいま

6月22日 キリストの聖体 ルカ9章11b～17節 12のかごがいっぱいになった

教会では聖霊降臨のあと、三位一体、そしてキリストの聖体をお祝いします。キリストの聖体の祭日は、本来は年間第12木曜日ですが、主の昇天と同様、日本では日曜日に祝われます。最後の晩さんを記念する聖木曜日こそが聖体の記念日であるといえますが、主の復活を記念したわたしたちは聖体の秘跡の意味をさらに深めていきます。そして秘跡の源である聖霊の働きにも心を向けることができるでしょう。

今日は最後の晩さんでの聖体制定の場面ではなく、パンを増やす奇跡の福音が読まれます。それは聖体の秘跡を象徴する出来事だと考えられているからです。しかし、イエスが賛美の祈りを唱えてパンを配らせたことがミサと似ているから、というよりも、この出来事のあり方に聖体の秘跡の意味が見いだせるため、この箇所が選ばれているのでしょう。

ではどのようなところがミサを表しているのでしょうか。まず、イエスは何もないところからパンを作られたのではなく、弟子たち（ヨハネでは少年）が持っていたパンと魚を元に増やされたということです。これは奉納を思い起こさせます。ミサの奉納は聖変化に用いるパンとぶどう酒を祭壇に運ぶことと思われていますが、大切なことはわたしたちの日常生活での喜びや悲しみを奉獻することです。この一週間の喜びや悲しみの体験を神さまに捧げます。献金を納めるのをミサの参加料のように考える人もいるかもしれませんが、日常生活を過ごしたしるしとして生活費の一部をおささげするのです。

そしてみんなが満腹したあと、イエスは残ったパンを集めるように言われます。ヨハネでは「少しも無駄にならないように」と念を押されています。イエスは残ったパンを活用することを考えておられるということですね。ではどのように活用されるのでしょうか。そのヒントは12のかごにあります。12はイスラエルを表す数字です。ということは、そのパンをイスラエル全土に配るように、という意味だと考えられます。イエスのパンはここに集まっている人々以外にも配る用意がされているということなのです。

最初のパンは弟子たちが配りました。しかし、12かごのパンは群衆にゆだねられたのではないのでしょうか。そして、パンとともに彼らがイエスに出会った喜びや、イエスが語られたみことばも配られたはずです。イエスのパンは弟子たちからイエスの教えを聞きに集まった人へ、そしてそれを待っている人へと、さらに増えていくのです。

わたしたちは二週間前の聖霊降臨の主日に教会が始まったことを記念しました。教会は聖霊の働きによって始められ、いまでも聖霊の働きによって活かされています。そのしるしが聖体祭儀です。聖体祭儀をミサと呼ぶのは「ミッション＝派遣」から来ているのはご存知だと思いますが、今日の福音においても群衆はパンを配るように派遣される準備がなされています。わたしたちも心の中にイエスの体をいただいて、みことばと愛のパンを携えて必要な人に配るよう派遣されていくのです。

（柳本神父）